

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>平成30年11月定例教育委員会会議を開会する。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しているので、この会議は成立する。 会議録署名人は、森委員と西山委員とする。</p> <p>本日の会議日程について、議第69号～71号及び協議(1)については、「議会の議決を経るべき議案の原案の決定に関する事」に該当すること、報告(4)については、「正式公表前の案件」に該当することから、会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えるが、議第69号～71号、協議(1)及び報告(4)について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いする。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>全員賛成により、議第69号～71号、協議(1)及び報告(4)については、非公開とする。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	
<p>遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>10月29日開催の平成30年10月定例教育委員会会議録を承認することに異議があるか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前回の会議録を承認する。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>(1) 事業・行事等報告について</p> <p>前回会議(H30.10.29)以降の事業・行事報告(主なもの)</p> <p>10月31日(水)   第4回校長・園長代表者会</p>	

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

11月 1日(木)	熊本博物館協議会
6日(火)	心かがやけ月間 あいさつ運動
12日(月)	教育課程検討会議
14日(水)	臨時教育委員会会議
17日(土)	教育委員会行政視察(～16日)
18日(日)	熊本市PTA研究大会
19日(月)	平成30年度第11回「くまもと教育・文化フォーラム」
20日(火)	小中一貫教育検討委員会 第4回校長・園長会
今後の予定(主なもの)	
11月30日(金)	臨時市議会
12月 1日(土)	博物館リニューアルオープン記念式典 一新幼稚園創立100周年記念式典
11日(火)	第4回定例会市議会開会(～12月27日)
21日(金)	市立幼稚園・高校・特別支援学校終業式
23日(日)	全国高等学校駅伝競走大会
25日(火)	市立小・中学校終業式 熊本市一斉街頭指導出発式
日程第3 議 事	
・議第72号 教育課程検討会議での検討結果について	
《松島指導課長 提出理由説明》	
西山委員	月曜日は祝日が多く、大学では月曜日の講義の時数が足りない場合に、祝日も授業を行うことがある。そのように、曜日によって時数が足りなくなることはないか。
松島課長	ご指摘のとおり、月曜日は休みが多く、その調整については、各学校で行っているものと認識している。
遠藤教育長	先ほど来年度の長期休業について、「熊本市立小中学校の管理運営に関する規則」を変更する必要はないとの説明があったが、

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

<p>松島課長</p>	<p>この長期休業についての議決は、何に基づいて行うのか。同規則に長期休業について日にちが定めてあるものを変更するが、来年度は特例であるためか。</p> <p>特例であるため規則を変える必要はないが、来年度長期休業を変更するにあたって、「熊本市教育委員会教育長事務委任等規則第1条第1号 学校教育に関する一般方針を定めること」にあたるものとし、教育委員会の議決を求めるものである。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>規則中に、教育委員会で議決した場合はこれによらないとされているのか。</p>
<p>中村学務課長</p>	<p>同規則第3条第2項中に、校長は、教育委員会の承認を得て、休業日の期間を変更することができるがあるが、それに続いて、「ただし、委員会が別に定める場合に該当するときは、当該承認を得ることを要しない。」とあるため、ここで議決いただくことによって、この長期休業の変更を委員会が別に定める場合に該当するとし、校長が教育委員会の承認を得る必要がないものとするもの。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>同規則では、休業日が定まっていて、校長は熊本市教育委員会の承認を得てその休業日を変更できる。ただし、委員会が別に定める場合に該当するときは、承認を要しないとなっている。そのため、今回議決が行われれば、校長に変更してもらうという扱いになるのか。</p>
<p>中村課長</p>	<p>委員会が別に定めることになることから、議決がなされれば、委員会が定めたものとなる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>委員会が定めたら、休業日に変更できるとは書いてある訳ではなく、校長は教育委員会の承認を得なくて良いとあるため、校長がこのとおり変更することについては、承認を得る必要がないということではないか。</p>
<p>中村課長</p>	<p>そうである。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>では、校長の判断によって変更しないということもできるということではないか。何故管理規則を変更しないのか。</p>

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

中村課長	この変更は、検討会議での協議も経たもので、また、来年度に限ったものであり、継続するものではないため、同規則の変更はしないものと考えている。
遠藤教育長	承認は必要なくても、各校長が変更の手続きをしなければならぬ。校長が何もしなかったら、同規則に定めてあるとおりになるので、手続きとしてはやや不十分に感じる。
塩津部長	熊本地震の際も同じように一年に限って休業を定めたことがあり、その際も教育委員会会議で議決をいただいた。
遠藤教育長	変更する主体が、校長なのか教育委員会なのか考えると、この定めでは校長であり、校長が必ず変更するという確約があるから大丈夫ということでもいいのか。
西山委員	教育委員会が長期休業を変更するという場合には、同規則を改正するということになるのか。
遠藤教育長	そうである。
西山委員	今回変更しても、来年度もまた変更しなければならない。
遠藤教育長	4月8日と12月25日は今後も長期休業に加える予定であるため、おそらく、来年度も規則の変更が必要になると考えられる。
森委員	では、来年度特例となる変更は、夏休みだけか。
遠藤教育長	今のところ、来年度の夏休みを再来年度以降よりも短くすることが来年度の特例である。
森委員	再来年度以降、4月8日と12月25日が休みとなることによって、その分夏休みは短くなるのか。それとも、短くせずに授業を組み立てるのか。
松島課長	検討会議の中では、夏休みの日数を2日短くし、長期休業のトータルの日数は変えないという案が上がっている。来年度以

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

	<p>降、予備時数を減らすこともあり、本案を実際に学校で実施してみても、それでもなお学校の授業時間にゆとりがない場合には、長期休業の日数について再検討することになると考える。但し、4月8日と12月25日を休業日とすることについては、強い要望があるため、変更はないものと思われる。</p>
遠藤教育長	<p>では、夏休みの短縮が2日なのか、それ以上になるのかについては、議論の余地があるということか。</p>
松島課長	<p>そうである。また、来年度に限った特例については、規則改正の必要がないという認識であったが、先ほどご指摘を受けて、単年度に限ることで規則改正をし、教育委員会から来年度の休業日はこのように実施すると伝えるべきものであると改めて認識をしているところである。</p>
遠藤教育長	<p>校長が休業日を変更する場合には、いつ、どのような手続きが必要か。</p>
松島課長	<p>これまで、そのような実例を聞いたことがないため、改めて確認を行う。</p>
遠藤教育長	<p>本件については、本日の会議で決定する必要があるか。</p>
松島課長	<p>現在、来年度の行事等の調整を始めているところであり、可能であれば、この会議で来年度の休業日の方向性については確定させていただきたい。</p>
遠藤教育長	<p>来年度の長期休業を案のとおりとすることをこの場で決定し、管理規則を改正するのかどうかについては、次回までに検討いただくということでいいか。</p>
松島課長	<p>それをお願いしたい。</p>
遠藤教育長	<p>来年度の長期休業については、この日程で実施するということが良いか。</p> <p style="text-align: center;">〔採決〕      【原案どおり承認された】</p>

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

遠藤教育長	<p>この手続きについては、後日決定することとする。</p> <p>また、資料6-3にある「予備時数」と「土曜授業」について何かご意見はないか。予備時数は、働き方改革で授業自体を減らすということで、非常に大きな意味を持っていると思う。これまである程度余裕を持って予備時数を設けていたが、どこまで減らすことができるかを検討した結果であり、是非進めていきたいと考えている。</p>
西山委員	<p>今回このように長期休業を決定することに異議はないが、今年のような酷暑の場合、夏休みが短くなることが望ましい方向なのか考える必要がある。例えば、土曜授業を増やして夏休みを確保することなども議論いただきたいと思う。</p>
遠藤教育長	<p>来年度以降に向けて、そのような方向性を考えることも必要である。また、夏休みの始まる期日についても検討する必要がある。今年の例では、7月後半が非常に暑く、8月後半は暑さにも慣れ、あまりきつさは感じなかったように思う。夏休みを少し前倒しするという選択肢も考えられる。</p>
出川委員	<p>先ほどの予備時数についての説明で、多いところでは70コマ以上予備時数を取っていたということだった。インフルエンザや台風、大雨などのためにも予備時数を取っていたということだが、教える内容について、もう少し時間をかけて行いたいということで、予備時数を取っていた側面もあるのではないかなと思う。もしもそうであれば、先生も子どもたちも、普通の授業だけで理解を深めていくことに無理が生じないか。</p>
松島課長	<p>ご指摘のことと同じ意見を持つ学校もある。この予備時数は目安であり、ゆとりをもったカリキュラムにするために、これ以上の予備時数を確保することについては、各学校の判断で可能である。但し、この目安を示したのは、授業以外の時間においても、子どもと向き合う時間を柔軟に確保するためであり、ある程度はこの目安に沿っていただきたいと考える。</p>
小屋松委員	<p>土曜授業について、「年4回程度」から「年2回以上」に変更となると、単純に半分程度に減ると捉えられると思うが、この変更は、「学校裁量幅の拡大」のためとのことである。この変更の根拠について今一度説明をお願いする。</p>

<p>松島課長</p>	<p>今年度から土曜授業を本格的に開始しているが、活用のしがいが大変あるという声がある一方で、逆に何故土曜日に授業を行わなければならないのかという声もある。後者の声のほとんどが、通常の授業を実施するのであれば、土曜日ではなく夏休み等を短縮することで授業時数にゆとりを持たせればいいのではないかというものである。土曜授業で地域との交流授業等を実施する場合には、有用性が感じられるが、4回程度実施しなければならぬので実施するということになる、否定的な捉え方も出てくる。開かれた学校という視点を持ち、地域との交流を進めていただきたいが、地域性が豊かな地域もあれば、そうではない地域もあるため、実施日数に幅を持たせて、各学校の実情に合わせて実施することに変更するものである。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>単に回数が4回から2回に減ったと捉えられないよう、開かれた学校を実現するために実施することをわかってもらうことが大事であると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>本件について、方針については、本会議で決定するものとし、手続きについては、規則を改正するのかどうかを次回までに検討するということがいいか。</p>
<p></p>	<p>(教育委員全員 異議なし)</p>
<p>日程第5 報告</p>	<p></p>
<p></p>	<p>・報告(1)「市長とドンドン語ろう&amp;タウンミーティング!with 高校生」の意見交換内容について</p>
<p></p>	<p>・報告(2) リニューアルオープン後の運営方針について</p>
<p></p>	<p>《植木博物館長 報告》</p>
<p>西山委員</p>	<p>資料9 - 20 「博物館活動への市民参画・協働についての方</p>

	<p>針」のところで、「熊本博物館が活動を支援する団体」についての説明があったが、北九州市の「いのちのたび博物館」は、「博物館友の会」を結成している。学芸員が中心となって、会員を引き連れ、フィールドに出るというような活動を行っている。そのようなことも検討してはどうか。</p>
<p>植木館長</p>	<p>資料9-21に当博物館の友の会の運営について記載している。今後の熊本博物館の発展のために、友の会結成による市民参画は重要である。休館によりこれまでの友の会の活動は中止していたが、これまで学芸員に過度に負担がかかり過ぎていたというような運営上の課題もあり、それらのことを踏まえて、今後は友の会を、親睦を深める団体としてだけでなく、博物館活動を支援いただく団体として成り立たせていくことができないか検討しているところである。今後の博物館活動の中で少しずつ検討しながら進めていきたい。</p>
<p>西山委員</p>	<p>先日、博物館を訪問した際に、学芸員と話す機会があった。夏休みになると、多くの小中学生が採集品を持ってきて、鑑定を依頼するため、非常に忙しいとのことであった。他県の博物館では、夏休みが終わる1～2週間の間、採集品分類同定会を開催しているところがある。学芸員の負担軽減となり、効率的で宣伝にもなるため、そのようなことも考えてはどうか。</p>
<p>植木館長</p>	<p>今後は、夏休み中も子どもたちが訪れやすく、また学習できる場も作っていきたいと考えている。負担軽減も同時に考えながら、充実した施設になるように考えていきたい。</p>
<p>泉委員</p>	<p>博物館ボランティアについて、ボランティアになるには、ある程度の知識等が必要なのか、また、どのような内容のボランティア活動を行うのか教えていただきたい。</p>
<p>植木館長</p>	<p>物の取り扱い方法や整理の手順など、ある程度専門的な知識を習得し、活動していただくことが必要である。これから様々な講座を実施する予定であり、講座で文化財の取り扱い等に関する知識を得ていただく中で、ボランティアとしてお手伝いいただける方を募集していきたいと考えている。</p>



・報告(3) 平成30年度熊本市教育委員会優秀教職員表彰について

《木櫛教職員課長 報告》

・報告(5) 熊本市生涯学習指針(答申)について

《渡部生涯学習課長 報告》

西山委員

資料12-47(右下)に、生涯学習の定義が定めてあるが、漠然としていて、生涯学習を推進するために何を行うのかわからない。アンケートに答えた方が生涯学習をどのように捉えているのか気になるところである。この定義からすると、本屋で本を買って読めば、生涯学習を行っていることになる。そのような理解で回答しているのか、カルチャーセンター等に行って講座等を受けることが生涯学習と思って回答しているのかもよくわからない。生涯学習について何を推進しようとしているのか教えていただきたい。

渡部課長

生涯学習指針策定委員会においても、生涯学習とは幅が広く、何を以って生涯学習と判断するのか、市民一人ひとりの判断が異なるため市民アンケート等でも問いかけ方が難しいという指摘があっている。総合計画の中で、毎年市民に同じような質問を投げかけており、生涯学習を「したことがある」という割合は40%台を推移しており、あまり変化は見られない状況である。しかし、毎年アンケートの回答者は変わり、その人の考え方一つで、生涯学習を行ったかどうかが変わるため、アンケートの手法について工夫が必要であると認識している。「過去一年間に生涯学習を行った市民の割合」を第7次総合計画の指標に位置付けており、今後はこの指針に基づいて、アンケートの内容を考えていきたいと考えている。

遠藤教育長

私も西山委員と同じことを考えた。一年間で生涯学習をしたことがない市民が50%いるということだが、本当に一年間で一冊の本も読まず、インターネット、テレビもラジオも利用し

	<p>ない人が50%もいるのかと考えると、そうではないと思うので、そもそも生涯学習とは何かということが伝わっていないと考えられる。また、生涯学習の定義のうち、熊本市としては、どの範囲を行政として推進すべきと考えているのか。</p>
<p>渡部課長</p>	<p>基本的には、資料12-47にある生涯学習の定義中の「社会教育」と「家庭教育」を推進したいと考えている。アンケート調査ではこの部分だけではなく、全ての生涯学習が含まれてしまい、また、具体的に何を行ったのかが本アンケート調査では見えない。具体的にどのようなことを行ったのかということがアンケート結果で読み取れるような手法を取らなければ、社会教育や家庭教育の推進にまで踏み込めないという課題があるという認識を持っているところである。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>アンケートに答えた方は、社会教育の部分のイメージを持って回答していると思う。公民館や生涯学習関係機関の講座等を受けたということが、生涯学習を行ったということになっていると思う。その区別をはっきりさせて推進していく必要がある。</p>
<p>西山委員</p>	<p>同じく生涯学習の定義の社会教育のところに「公民館等が行う学習」とあるが、ここに博物館や図書館が行う学習を加えるべきではないか。</p>
<p>渡部課長</p>	<p>博物館や図書館のことも考慮し、「等」としている。</p>
<p>西山委員</p>	<p>博物館は特にリニューアルオープンすることもあり、特に記載してはどうか。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>検討の余地があると思われる。 また、「公民館等が行う学習」は「公民館等で行う学習」ではないか。</p>
<p>渡部課長</p>	<p>修正を行う。</p>

日程第6 自由討議

・テーマ：平和教育について

遠藤教育長

今月は、「平和教育」をテーマに討議を行う。先ほどの事務局報告にもあったように、11月14日～16日に教育委員の皆様と私で、沖縄県に行政視察に出向き、先進地である沖縄各市の取組等について、実際の状況を伺ってきたところである。本日は、その行政視察の結果も踏まえ、平和教育をテーマに自由討議を行う。

討議を始めるにあたり、本市の現状等について、事務局から説明をお願いする。

《松島 指導課長 説明》

・本市の平和学習は、授業における学習と修学旅行における長崎・広島等での平和学習がメインである。

・小学校では、社会科を中心に高学年で学習している。但し、事実等を学ぶだけではなく、国語の読み物で戦争に関する教材を扱い、戦争で受けた心の傷など感情的な部分や態度形成等について、道徳も含めながら学習している

・総合的な学習の時間では、修学旅行を核に、子どもたちの自主的な事前・事後の調査活動等を平和学習として実施している。

・小学校では、全ての学校が修学旅行で長崎を訪問しており、全ての学校で被爆体験談を聞く、原爆資料館を訪問するといった平和学習を行っている。

・中学校でも同様の教科での授業で平和学習を行っているが、小学校とは違い、修学旅行で全ての学校において広島や沖縄を訪問し、平和学習を行っている状況ではない。但し、広島・沖縄を訪問する場合には、必ず平和学習を行っている。

西山委員

本市の現状についてお尋ねする。熊本大空襲についての授業等は実施されているか。

松島課長

全てを把握しているわけではないが、校区に実際に大空襲を体験された方がいらっしゃる場合には、6年生の社会科の授業や総合的な学習の時間で話を聞く機会を設けている学校があると聞いている。また、先日教育委員会事務局に、語り部として

<p>西山委員</p>	<p>活動したい方から、その活動方法の相談があり、お住まいの校区の学校に紹介したところである。</p> <p>出身地である長崎では、8月9日の原爆の日は、一斉登校日であり、必ず平和授業が実施される。おそらく、広島でも8月10日に同様のことが実施されていると思う。今回訪問した沖縄では、6月23日を「慰霊の日」と定め、平和授業を実施しているということであった。熊本市は7月1日の熊本大空襲で約400名の方が亡くなられ、新市街から新屋敷一帯は焼け野原になってしまったが、そのような歴史を子どもたちがほとんど知らない。私の子どもたちも皆修学旅行で長崎に行ったが、どこか他人事で、長崎のことであって自分たちのこととして受け止められないでいる。熊本市の子どもたちも同じ状況であれば、亡くなった方の数は違うかもしれないが、一人の命の重さに違いはなく、熊本でも同じようなことが起こったことを伝え、自分たちの問題として感じてもらうことはとても大事なことであると考える。熊本大空襲のことが伝わっていないのではないかと、とても気になるところである。</p>
<p>坂本図書館長</p>	<p>学校現場での取組の紹介があったが、図書館では、今年7月10日～8月26日まで、「夏の平和展」と題し、熊本大空襲に焦点を当て、当時の写真や資料等の展示や講演会を行った。夏休み期間中は、多くの子どもたちが来館するため、熊本で起こったことに触れてもらいたいと、そのような企画を行ったものである。図書館ならではの取り組みとして、戦時中の絵本をたくさん展示し、貴重な本ながら手に取り、読むことができるようにした。戦時中の生活や戦争が激しくなっていく変化の様子を絵本から読み取り、学ぶことができる企画とした。</p>
<p>西山委員</p>	<p>それは、大変良い取り組みだと思う。しかし、毎年子どもたちに伝える必要があると考える。例えば、毎年7月1日の大空襲の日に、必ず全小学校でこの日に起こった大空襲の講話を行うなどの取り組みが必要ではないか。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>確かに、沖縄、長崎、広島では、それぞれその地域での経験を伝えている。熊本でも熊本での出来事を伝えることも一つの方法である。</p> <p>今回行政視察で沖縄に行くにあたって、西山委員は、特に平</p>

<p>西山委員</p>	<p>和教育について問題意識を持っておられたが、実際に沖縄を訪問しての感想はいかがか。</p> <p>83名の方々が集団自決をされた悲劇の場所であり、沖縄の方にとって聖地であるチビチリガマが、沖縄の少年たちによって荒らされたという報道を聞き、どうしてそのようなことが起きたのか知りたいと思ったのが、沖縄に行きたいと思ったきっかけである。その聖地を沖縄の少年たち自らが荒らすということは信じがたく、沖縄の方々も大きな衝撃を受けただろうと思った。</p> <p>チビチリガマの所在地である読谷村を訪問して、実際に話を伺ったところ、やはり沖縄の人々に大きな衝撃を与える事件であったことがわかった。更に、その事件を起こした少年たちは村外の居住者であり、村では詳しい事情はわからないが、不登校であったと聞いており、おそらく学校等で平和教育を十分に受けていなかったために起こった事件であろうと聞き、納得した。今では反省し、地元の彫刻家とともに仏像を彫って、安置する活動を行っているそうであるが、平和教育を浸透させることが、いかに難しいか痛感させられる事件だったと思う。</p> <p>沖縄には、たくさんのそのような悲劇の場所があり、それぞれが聖地となっている。沖縄の方々はそのような場所に敏感であると思っていただけに、私もショックを受けた事件であった。</p>
<p>泉委員</p>	<p>たくさんの聖地があり、自分のおじいさん、おばあさんに必ずその被害者がいると言われるほど、戦争をとて身近に感じていると思われる沖縄の地でさえ、語り部が少なくなってきた、伝えていくのが難しい状況にあることを聞き、西山委員がおっしゃるように、平和教育を浸透させることは難しく、薄れているのだなと感じた。戦争や地震などだけではなく、様々な経験が人間社会の中で薄れていくことは仕方がないことであり、そのような中で平和教育を行うには、それなりの技術を持って、子どもたちが自分の問題であると身近に考えられるように、様々な方法を持って実施しなければ伝わらないとつくづく感じた。どのようにして考えさせるかということは、先生たちの技量であると思われ、沖縄では、教師のための平和教育研修がたくさん実施されているということが印象的であった。是非、熊本の先生たちにも、子どもたちに上手に伝えることができ、臨場感溢れる授業を実施する手法を学んでもらい、技術を身に</p>

<p>西山委員</p>	<p>つけていただきたいと思った。人の命について考える良い機会であり、また、今起こっているテロや核兵器の問題等の様々な問題も、子どもたちに考えさせる良い教材になると思う。</p> <p>戦争の悲劇を伝えるだけではなく、戦争が起こらないようにするためには、どうしたらいいのかも考えさせることがとても大事である。その二つのポイントを押さえた平和教育を実施していかなければならないと思うが、難しい現状にあると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>私も沖縄で同じようなことを感じた。何のために平和教育を行うのか考えると、それは当然戦争を起こさないためである。しかし、先ほど西山委員がおっしゃった、その地域で起きたことと、それを自分の問題として考えることのギャップに関連するかもしれないが、沖縄では沖縄戦のことが平和教育の中心になり、長崎・広島は原爆のことが中心となる。それらは戦争の部分的な局面であり、何故戦争が起こったかということに関する学習や、起こさないために何が必要なのかということについて学ぶ機会がどのくらいあるのだろうか。沖縄では沖縄戦のことだけに特化して、例えば小学校1年生から中学生3年生まで継続して学ぶとすれば、地域で起こったことをベースにする必要はあると思うが、そこから発展させていくことはなかなか難しいことだと思った。</p> <p>また、沖縄の視察先の皆さんが、「平和行政」という言葉を使われていたのがとても印象的であった。行政全体として、平和の創造に取り組んでおられ、その中の一つ手段が平和教育であるというような意識を持っておられることを新鮮に感じた。</p>
<p>出川委員</p>	<p>平和祈念資料館等の視察を通じて、子どもが小さい頃からそのような学びが必要であると思った。しかし、なかなか小さい頃からだと意味がわからないこともあるという話も聞いた。小さい頃に、日頃の家庭生活や教育の中で、自分が大事にされていることを感じる生活ができ、他人のことも大事だということもわかった時にはじめて、戦争に関連することに触れる際に自分の問題として考えることができるようになるのではないかと思うので、人権の意識というような土台が必要ではないかと思う。また、色々な人が色々な意見を持っているということは当然のことであるが、誰かが我慢して平和になるのではなく、お互いに様々な意見を交わし、それを調整して良い形にすること</p>

	<p>が望ましいと考える。学校でも、例えば相手の意見を聞き、自分の意見も言い、そしてそれを調整する力をつける取り組みを行うと、それが平和教育に結び付くのではないか。このように戦争を起こさないための土台作りや、戦争が起きないように調整する力を育むといった視点でも、平和教育を考えるといいのではないかと感じた。</p>
<p>西山委員</p>	<p>日本人は、付和雷同型であり、自分の意見を言い、別の人が違う意見を言って議論し合うことができない。ディベートが苦手であり、大学生にやらせてもできない。皆と同じでいたい、皆と違うと見られたくないという意識が非常に強いためだと考える。一旦付和雷同型に流れてしまうと、戦争へと一気に行きそうな気がする。そこも含めて教育しなければならないと思う。</p>
<p>出川委員</p>	<p>多様さを認めながらも、平和教育自体とは違うところで、調整する、折り合いをつけるといった力をつけていく必要があると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>戦争を起こさないためには、そのような力が必要だと思う。視察先での沖縄の平和教育では、戦争は絶対悪だということを教え込むという姿勢を強く感じた。実際の経験を通して、戦争の実像から教育することになると考えられるが、異論を許さない雰囲気があり、それが本当に正しいことなのかという疑問を感じることもある。</p> <p>西山委員がおっしゃった、付和雷同型で議論できないという性質が、チビチリガマにおいても誰も異論を挟めず、集団自決することにつながったが、別のガマでは、その当時の日本の教育に染まっていなかった人が投降しようという意見を出し、全員助かっており、人と違う意見を言うことができるという教育が必要なのではないかと感じている。</p>
<p>西山委員</p>	<p>チビチリガマでは、余程米軍が怖かったと考えられ、仕方がなかったのだと思う。例えば、今私たちがガマにこもっており、攻めてくる相手がISだとしたら、自決した方がいいと思うかもしれない。それと同じ気持ちだったのではないか。そのような教育に染まっていた時代であり、批判はできないと思う。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>そのように教育に染まるということが怖いところである。</p>

<p>森委員</p>	<p>私はチビチリガマに行った時に、現場に行く大切さを感じた。現地で語り部の方の話を聞いたが、一生懸命に話されるその話しぶりに引き込まれていった。その話こそが平和教育そのものであると感じるほど、凝縮された内容を持って、メッセージを伝えられていた。話を聞いて、戦争は悲惨な出来事である、平和でなければならない、といったことは頭でわかっているだけでは仕方がなく、心に響くという体験から、心でわかる、心に残ることがなければ、本当の平和教育にならないのではないかと思った。今回、チビチリガマの現場で話を聞いて、当時のことを現実的に想像することができ、語り部の方の話が心に響いて自分の中に入ってきた経験から、現場体験が必要だと思った。中学校の半分くらいは、修学旅行で平和学習を行っていないという基本的な課題があるかもしれないが、そこに行ってみる、そこで話を聞くことは大事なことだと思う。沖縄に行くには費用もかかるので、7月1日が熊本大空襲の日であり、遠くに行くことなく平和学習ができるのであれば、教材として活用できないかと思う。いずれにしても、単に教科書上の平和教育だけでなく、心に響く教育になるように現場を視察することはいいことであると思った。</p> <p>フィールドワークという言い方もあり、私も現場を視察することは大事であると思う。今回の視察で印象に残った話は、平和祈念資料館の館長が、「戦争には色がある」と言われたことだった。どういう色という話はなかったが、戦争には色があって、例えば空襲で空が真っ赤に焼けている、黒煙が上がっている色、また、においもあり、物の焼けるにおい、死体のにおいなど生々しいものがある。今現地に行き、それを見ることができない訳ではないが、その場に行くことによって、より状況を想像しやすくなる、それに接することで理解しやすくなるということはあるため、現場に行くことは大事であると思う。</p> <p>また、先ほどの熊本大空襲について、水道町の白川の護岸の近くに空襲の碑がある。毎年設置団体等が、7月1日に慰霊祭を実施されている。このような出来事があったというモニュメントもあり、そういうことをどう活用するか、また、どう継続するか考えるべきである。これも沖縄で聞いた話であるが、一冊の本を読むとき、読む年齢によって本の受け止め方が、その人の年齢・経験によって変わるということである。同じことを繰り返して何になるのかということではなく、繰り返す中でど</p>
------------	--



遠藤教育長	<p>んどん人間の成長とともに、受け止め方も深まっていくことがあるということであった。続けることの大事さを改めて感じた。</p> <p>熊本には、碑の他に、実地で残っている跡地はあるのか。</p>
森委員	<p>一部防空壕などはある。校区によっては、空襲があった当時の実地を見ることができる。また、私が子どもの頃住んでいた家で、土を掘ったら、薬きょうが出てきた。親に聞くと、戦闘機が来て機銃掃射された時のものだろうと言っていた。このように生々しい戦争の跡もある。これらをどのように活かすかということである。</p>
遠藤教育長	<p>沖縄平和祈念資料館では、砲弾など実物の貸し出しを行っているということであった。そういうものを直接見ることで、子どもの印象にも残るし、考えるきっかけになると思う。</p>
西山委員	<p>熊本では、8月10日にも2回目の大空襲があり、38人が亡くなっている。8月10日は長崎の原爆の翌日であり、熊本が原爆の被害に遭う可能性もあった訳で、そのようなことを教えていかなければならない。</p>
森委員	<p>当時、原爆投下の候補地が、広島・長崎以外にあって、偵察機が確認したところ、たまたま雲がかかっていたため、投下を免れた地域もあったと聞く。日本の主要都市は、どこでも被害に遭う可能性はあった。よく、アメリカが文化財保護のために京都は爆撃しなかったという間違った風説があるが、京都の西陣も空襲に遭っており、京都も原爆を落とす対象であった。</p>
小屋松委員	<p>現在沖縄には、アメリカ基地を辺野古に移すという問題があり、沖縄では反対運動が起こっているが、我々はどれほどその痛みを感じているだろうか。もしも、熊本に移設するという話になったら途端に慌てることになると思う。戦争時に起こった沖縄のことも、現在中東などで起きている紛争についても、住んでいる地域以外のことは、どうしても他人事になってしまう。そのようなところをどうにか変えていかなければならないと思う。</p>
西山委員	<p>そこが、沖縄の方々が腹立たしく感じるころだと思う。何</p>

<p>泉委員</p>	<p>故自分たちだけが苦しまなければならないのかと感じられていると思う。沖縄では、沖縄以外の地を「本土」と呼ばれていた。自分たちは沖縄で、本土は違う国という感覚であると感じた。</p> <p>今回の視察で、大人の私たちが衝撃を受けて帰って来たので、子どもたちがあのような経験をしたら、非常に感銘を受け、考えるきっかけになるのではないかと思った。そのような機会が必要ではないかと感じた。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>今年度は、修学旅行で沖縄に行く学校が1校しかないのは、残念な気がするが、金額面や、飛行機の欠航等が発生した場合の問題等があると思われる。また、大人だから非常に感銘を受ける面もあるように思う。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>修学旅行で来た高校生も、チビチリガマで話を聞いていたが、彼らの顔を見ると、食い入るように話を聞いている感じはした。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>現場に行って話を聞くということの意味は大きいと思う。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>沖縄平和祈念資料館の財務表を見ると、収入と支出では、倍くらい支出が多かった。それでも、設置主体である県はマイナスシーリングで考えているということだったので、沖縄においても平和に関する予算が減らされていることに驚いた。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>お金をかけている様子は感じられず、私も同様の疑問を持った。</p> <p>ところで、学校の教育活動全体を通して、他の教科など普段の授業の中でどのように平和教育を行っていくかということは、とても難しいことだと思われる。沖縄の方もそこが一つの課題であると言われていた。今会議の本市状況の資料には、修学旅行で平和学習をしたということだけではなく、国語や社会の時間に平和教育が行われているとある。私の子どもの頃も平和教育があったが、平和学習の時間が設けられて学習し、国語、社会等とは切り離されていたように思う。社会の時間に歴史として戦争について学ぶが、その中で戦争を起こしてはいけないというところまで話すことはないと思う。どうしたら、通常の授業でも平和教育が実施できるのか。</p>

<p>松島課長</p>	<p>社会科の歴史の授業の話があったが、参考例を紹介する。中学校の社会科研究会では、太平洋戦争、第二次世界大戦について学ばせるため、「ハルノート」、「ポツダム宣言」を使った教材を作成している。例えば、「ハルノート」という文書で、何故日米戦が起こったか、アメリカ・日本それぞれの思惑、どうすればそれを回避できたのかということを考えさせる。「ポツダム宣言」では、受諾までに時間がかかったが故に、ソ連の参戦や広島・長崎への原爆投下を招いてしまった、その前に受諾していればその悲劇は起こらなかったのではないかと、何故遅れたのだろう、先ほどの付和雷同の話があったが、そうならないように決断・判断の大事さを学ばせる。このような教材化を各学校等で行っており、そういう事例はたくさんあるため、あとは各担当者がどれだけしっかり活用するかであると考えている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>事例をたくさん作っていくことは必要である。</p>
<p>泉委員</p>	<p>沖縄では、沖縄のおじい・おばあちが、最近戦争に近づいている感じがして色々なことを語りだしたと話されていたことが印象的だった。確かに世界中が戦争に向いているような危険な感じがするので、特に平和について考えていかなければならない時代ではないかと感じている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>世界には、戦争が悪いと思っていない人がたくさんいるのも事実である。それを前提に持っておかないと、戦争を無くすことはできない。いくら私たちが戦争はいけないと思っていても、そうでない人もたくさんいる。アメリカは、独立戦争に勝って独立しており、全ての戦争を否定したら、アメリカの独立自体が否定されてしまうため、戦争は絶対悪という考えにはならない。</p>
<p>西山委員</p>	<p>アメリカは、自国の利益のためには戦争も辞さないと思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>戦争で勝って自分の利益を守った歴史を持っている多くの国には、良い戦争・悪い戦争という区別はあるかもしれないが、全ての戦争が悪だという発想はないと思う。そんな中で戦争が起こらない仕組みを考えなければならない。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>個人レベルでは、誰も戦争をしたいとは思わないと思う。国</p>

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

<p>森委員</p> <p>遠藤教育長</p> <p>〔非公開の審議〕</p> <p>日程第3 議 事</p>	<p>レベルになって国同士で対立して戦争になっていく。</p> <p>昔は人一人を殺したら、刑務所に入るが、戦争で一万人殺したら勲章をもらうと言われていたように、個人のレベルと国のレベルとでは違いがある。</p> <p>今後、熊本の平和教育において、いかに自分のこととして考えてもらうか、できるだけ実地の物を見に行ってもらうようにする、いかに普段の授業においても平和教育を取り入れていくかなど、色々と考えさせられる勉強になる視察であった。</p>
<p>・議第69号 平成30年度熊本市一般会計11月補正予算について</p>	
<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>	
<p>・議第70号 平成30年度熊本市一般会計12月補正予算について</p>	
<p>《上村教育政策課長 提出理由説明》</p> <p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>	
<p>・議第71号 熊本市立学校の教育職員の給与に関する条例の一部改正について</p>	
<p>《木櫛教職員課長 提出理由説明》</p>	

平成30年11月 教育委員会会議録(要旨)【11月21日(水)】

<p>日程第4 協議</p>	<p>〔採決〕 【原案どおり承認された】</p>
<p>・協議(1) <u>平成31年度当初予算要求の概要について</u></p>	
	<p>《上村教育政策課長 説明》</p>
<p>日程第5 報告</p>	
<p>・報告(4) <u>子どもたちの心のケアについて</u></p>	
<p>〔閉会〕 遠藤教育長</p>	<p>《徳永総合支援課長 報告》</p> <p>本日の日程は全て終了したので、平成30年11月の定例教育委員会会議を閉会する。</p>